

平成 28 年 3 月 31 日

教育学部長 殿

FD 委員会委員長

福田 亘博

3) 平成 27 年度「学生による授業評価及び授業点検シートによる教員の授業改善」 に関する報告

1. はじめに

学生による授業評価は、平成 26 年度教育学部を開設した時に組織的な FD 活動の一環として実施することを決定し、具体的に前・後期に実施し、授業評価及び授業点検報告書として、本学 HP の「FD/SD 活動の取組み」教育学部としてアップしている。今年度に入り、引き続き実施することを FD 委員会で決定し、その後教授会においても実施することを議決した。また、同時に学生による授業評価を受けて教員による授業点検シートにおいて改善点等を記載し、教員個々に授業を行う時に改善点等を説明することにした。また、これらの学生による授業評価及び授業点検による教員の授業改善に関する組織的な FD 活動を学生にフィードバックするために説明会を開催した（平成 27 年 10 月 19 日（月）、20 日（火）にそれぞれ 1 年生及び 2 年生を対象として実施）。また、その他大学や教育学部に対しての要望などを把握するために懇談会を引き続き開催した。

一方、本学における授業評価は、学内データベース上に構築された授業評価システムに学生が評価（0 点：悪い～4 点：良い）を直接打込むようになっている。しかし、問題点として、前期の授業評価は 7 月に後期の授業科目の登録時に行うが、その時に前期に受講したすべての授業科目の授業評価を行うようになっている。また、後期の授業評価は 2 月の次年度の前期の授業科目の登録時に後期に受講した授業科目を一括して打込み・登録するようになっている。従って、それぞれの受講した授業科目について、学生が授業評価する場合に正確に評価されているかの疑問がある。このことに関して、FD 委員会において検討した結果、授業終了前後に授業評価した方が正確に評価されるとの結論になった。これをうけて Web 上のシステムを改修し、平成 27 年度前期・後期の授業評価を実施した。

授業評価における点検項目は、平成 26 年度に設定した（「1. 学生の受講態度について③項目」、「2. 授業内容について 6 項目」、「3. 授業の進め方について 4 項目」、「4. 担当教員について 3 項目」、「5. その他 2 項目」とし、自由意見欄を設けた）のアンケート方式で実施したが、今年度について FD 委員会において検討し、引き続き使用することにした。

また、前年度に引き続き、アンケート中の授業改善につながる項目について、十分（4 点）～しなかった（1 点）とし、さらに合計・平均した評価平均点を算出した。教員の授業における評価平均点（学生の GPA に相当）とした。

授業点検シートについて、平成 26 年度に設定した書式について、FD 委員会において検討した結果、特に問題点等なかったことから、今年度も引き続き同様の書式（別添）を利用することにした。

これらの学生による授業評価及び教員による授業点検シートは、当該学期終了後、メール等により FD 委員長へ提出するように依頼した。

2. 前期における学生による授業評価及び教員による授業点検シートについて

学生による授業評価は、授業回数が 13 回～15 回にあたる講義日である平成 27 年 7 月 6 日（月）～7 月 24 日（金）前期終了までの間で授業終了後、授業評価を Web システムに打込むようにした。その後、教員には学生による授業評価をうけて改善点等を記述した授業点検シートの提出をメール等による依頼した。

その結果、10 科目の授業について担当教員から授業評価結果及び授業点検シートが提出された。1 年次を対象とした授業科目：5 科目（食の科学、数学と生活、算数、音楽、体育）であった。1 年生を対象とした授業科目における評価点は、食の科学（2.85）～算数（3.62）であった。

全般的に見て、学生にとって小学校、中学校及び高等学校において授業として学んできた科目では、比較的高い評価点で、また座学より実技系の科目で高得点となっているようであった。また、受講者数も評価に影響する因子（少ない受講者数では高い評価を得る傾向）となっていることが確認された。

一方、低い評価点となった科目（食の科学）について、担当教員からは次のようなコメントがあった。「食と栄養」に関する基本的な授業科目であること及び学生にとって入学後専門的な知識が少ないことから、生物や化学的な知識について高校で学んだ内容から説明し、さらに資料をパワーポイントで作成し、液晶でスクリーンに投影しながら説明すると同時に資料をプリントして配布した。これらの授業方法について、学生からは、資料が丁寧に作ら

れ分かりやすいと評価されたが、一方、非常に初歩的な化学を理解していない学生が多いためか、「振り返り」で確認しても回答できないこと、予習・復習など勉強して理解するように指示したが、やはり理解できないためか、授業が難しい、勉強することを強調しすぎたためか教員の学生に対する態度が厳しいなどのコメントがあった。また、シラバスに記載した内容について 80%以上を授業する必要があることから、授業内容の質問・回答などで「振り返り」確認を行う時間を少なくし、一方通行的な授業を展開したため、分かりづらかったとの指摘があった。今後、生物や化学の基礎知識を授業に織り込みながら授業を展開することを考え、最終的に理解しやすい授業を行いたいと授業点検シートに記述しているところから、授業改善について期待したい。

その他の 4 科目についても、体育 (3.44 点) ~ 算数 (3.62 点) の高い評価点であったが、コメント欄には、かなりの学生が良いと評価した反面、悪いとしたコメントが少数あった。例えば、内容が専門的過ぎて難しすぎるため学生のレベル・能力に合わせた指導を行って欲しい、厳しすぎる、発表に仕方に対して教員が口を出し過ぎるなどのコメントがあった。なお、これらの低評価となった授業評価やコメントされた授業科目について、「教員間の授業参観」を行っているが、教員は適切な準備等を行い、的確な授業方法で、分かりやすく実施していることを確認 (平成 26 年度及び平成 27 年度前期・後期における授業参観評価において満足すべき高い評価を得ている) している。また、コメントに関連して、平成 26 年度入学生ではほとんど見られなかったが、平成 27 年度入学生では数人の学生によりネガティブな書き込みがされていた。これらのコメントについて、学年進行に伴ってどのように変化するか、継続的に検証する必要があると思われる。

2 年生を対象とした授業について、6 科目 (図画工作、ピアノ・声楽 I、音楽科教育法 I、教育相談、保育内容指導法 (音楽表現)、保育内容指導法 (造形表現)) が報告され、これらの授業評価は、保育内容指導法音楽表現 (3.38 点) ~ 図画工作 (3.78 点) であった。学生による授業評価の評価平均点は「受講者数が増えると低下する」傾向にあった。受講者数が少ないと授業担当教員が受講者と Face to Face で授業を行えることから、当然の傾向であろうと思われる。

コメント欄に記載された内容は、1 年生におけるコメントと大きく異なっていた。すなわち、受講した授業科目に対して「良いと回答した」コメントでは、学生自身が予習・復習を行うようになったこと及び学年進行に伴って大学の授業で何を学ぶべきか等を明確に感じて「自分のためになった」ことが記述されていた。一方、授業科目によってはグループ学習では課題を事前に与え授業を行っているが、集まって打合せする時間が取れなかったこと

や課題数が多すぎるなどがコメントされていた。担当教員は、授業点検シートにおいて、指摘点について適切に周知・改善を図ると記述していることから、次学期において期待したい。

3. 後期における学生による授業評価及び教員による授業点検シートについて

授業回数が13回～15回にあたる講義日である平成28年1月18日(月)～2月4日(木)の講義修了までの間で、学生による授業評価を実施するように担当教員に依頼した。また、学生による授業評価結果及び授業評価結果から改善すべき点等を記述した授業点検シートについて提出するようにメール等で依頼した。

その結果、1年生を対象とした授業科目7科目(文学、健康の科学、生命と科学、子どもと食育、教職概論、保育者論、音楽とあそび)及び2年生を対象とした授業科目5科目(教育の方法と技術、特別活動の指導法、図画工作科指導法Ⅰ、子どもの音楽活動、保育実習指導Ⅰ)について、担当する教員から授業評価及び授業点検シートが提出された。

授業評価における評価点は、教職概論(2.91点)～保育者論(3.75点)であった。全般的に、受講者数と評価点との関係を見ると受講数が増加すると、一部の例外を除き、評価点は明らかに低下するようであり、前期における授業評価において観察された結果と良く一致した。また、実技系の授業科目において新たな問題として、評価点は3.45点で問題ないと考えられるが、コメント欄に多数のコメントがあった。すなわち、学生によって実技に対する知識と技術で個人差が大きく、従って、担当教員は初心者にも経験者にも十分に配慮した授業を展開したが、一部の学生にはやさし過ぎると評価した一方で一部の学生には難しいと評価されている。一方、担当教員の印象では学生の表現活動は良くできていると判断していることから、学年進行に伴って理論と実技面での進歩が伴えば解決できるものと考えられる。担当教員は熱心に補習授業等を実施しており、次学期の授業では十分に気を付けたいと授業点検シートに記述していることから、配慮された授業が実施されるものと考えている。

教職概論は「2.91点」と低い評価となっている。コメント欄では良かった点として、話題について例を挙げて分かりやすく話すこと、教員を希望するために必要なことを学べて良かったことなどがコメントされていたが、悪かった点として、一方通行的な授業が行われていると感じ、結果的に理解しがたいと感じている学生や説明が速すぎるために理解が追いつかないと感じる学生がいたようである。シラバスの内容を見ると教職概論として取り扱うべき授業内容は非常に多く、一定のスピードで授業せざるを得ないが、担当教員として次

学期には十分に配慮した授業（学生にとって分かりやすい授業）を展開することを授業点検シートにコメントしているので、改善されることを期待している。

その他の 7 科目について学生による授業評価におけるコメントや担当教員による授業点検シートにおけるコメントを紹介する。

・「文学」

多くの学生は興味を持って授業に参加したが、一部の学生は文学に対する興味が少なく、如何に興味を持たせるか今後検討したい。

・「健康の科学」

健康にかかわることを多く知ることが出来た、生活の中での身近な例を挙げながら授業を行われたので、印象に残った、パワーポイントで作成した資料が分かりやすかったとのコメントがあったが、私語等に対する厳しい注意に対する不満等がコメントされていた。担当教員から提出された授業点検シートでは、昨年度の学生に比べて授業態度の面で問題がある学生がいることから、このような学生に対する授業をどのように行うか、苦慮しているとのコメントがあった。

・「生命と科学」

グループ学習を導入した授業を実践しており、学生からは生命について理解できたとのコメントされたが、生命にかかわることをもう少し多く学びたかったとのコメントがあった。

・「子どもと食育」

少人数の授業であったため、学生の反応は良く、コメントも良く理解できた、タブレット PC を活用して不明な点等をその場で検索し理解させたため、楽しく授業を聞いたとのコメントがあった。担当者からすると少人数授業であったため、前回の授業の振り返りによる確認に時間が十分さけ、またグループ学習もスムーズに実践できた。授業点検シートには、次年度も同様の授業を実施したいとのコメントがあった。

・「保育者論」

少人数の授業で、グループ学習等を導入していたが、学生は与えられた課題は対してはするが、予習・復習を自主的にする姿勢が少なく、受身的な学習態度であった。次学期から積極的に授業に参加する授業方法を模索したいとのコメントがあった。

・「音楽とあそび」

実技として、初心者から経験者まで混在する中での授業で、これらの学生をすべて満足させることは不可能に近いと思われる。初心者を満足させる授業を採用すると経験者からすると物足りないとのコメントしている。課題も多すぎるとのコメントがある。担当教員は

次学期から習熟度別に分けて実施するとのことであることから、次学期における授業評価を期待したい。

2年生を対象とした授業5科目では、学生による授業評価の評価点は、教育の方法と技術(2.74点)及び保育実習指導Ⅰ(2.83点)以外は、図画工作科指導法Ⅰ(3.54点)～特別活動の指導法(3.62点)であり、高得点であり、評価されるべきものと考えている。

一方、低評価となった「教育の方法と技術」及び「保育実習指導Ⅰ」について、同じ教員が担当する科目であることから少し考察した。なお、前者の授業科目は教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目であり、後者は幼保コースの必修である。その結果、前者の授業では受講者27人であり、保育実習指導Ⅰでは受講者は4人となっており、受講者数と評価点との間には何ら相関は観察されなかった。コメントでは、前者の授業について具体的な目標・指示が行われないことや急な変更が説明なしに行われたことに対する不満が書かれており、また後者の授業でも同様に明確で一貫した説明が行われずに授業が行われ、結果的に同じ授業が繰り返し行われたあるいは何を学んだかが不明であるとのコメントがあった。担当教員から提出された授業点検シートでは、低評価と学生のコメントに対して真摯に対応し、改善を図ることが明記されていたことから、次学期において改善を期待する。

その他、後期に開講された授業科目について、授業点検シートに記述された内容を紹介する。

・「特別活動の指導法」

特別活動では、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の4つについて取り扱うが、現場で実際にどのような指導や評価が行われているかを具体的に示すために、現場の活動を撮影したビデオ等を視聴させる工夫をしている。これに対して「現場の状況が分かって良かった」と評価された反面「長すぎる」とのコメントがあったことから、ポイントを絞った視聴を行い授業改善を図るとのことである。また、学級活動について指導案の作成と模擬授業を結果、学生から良い反応が得られたので、さらにブラッシュアップを図るとのことである。

・「図画工作科指導法Ⅰ」

保育内容指導法表現より全体的に評価が低かったが、簡潔で分かりやすい授業を目指すために配布する資料等にももう一工夫したい。

・「子どもの音楽活動」では、楽譜がまだ読めない学生、音楽の基本となる長調、短調などが分からない学生がいる反面、1年生の時よりも楽譜を読む力が確実についたを感じる学

生が増えてきていることは何よりである。特に、2年生は入学時に半数がピアノの経験がない学生がいたことから、担当教員の粘り強い指導に期待したい。

4. 今後の学生による授業評価及び教員による授業点検シートによる授業改善について

我が国の大学教育における学生による授業評価は、平成12年11月に大学審議会が「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」の中で、「学生の学習意欲の向上に資するため、学生にとって授業をよりわかりやすくするための工夫を行なうなど、学生の視点に立った授業改善を行うことが必要であり、これに役立てる目的として、各大学においては、学生による適切な授業評価を実施するとともに、その結果の公表等を通じて教員の教育改善への取り組み」に生かしていくことが重要であると答申されて以来、現在まで代表的なFD活動の一例となって定着化されている。特に、平成20年の大学設置基準の改正に伴い「FD活動が義務化」されたことにより、学生による授業評価の重要性は益々増大するものと思われ、実際に文部科学省による最近の調査では授業評価の実施率は約80%を超えているようである。一方、平成16年度より大学の教育の質保証を目的とした学校教育法・学校教育法施行令の改正に伴い、国公立大学の高等教育機関に対する認証機関（大学基準協会、大学評価・学位授与機構、大学高等教育評価機構の3つのいずれかによる評価）による7年ごとの認証評価を受審することが義務付けられたことから、教育改善のための授業評価は、今後ほとんどの大学が導入・実施することになると思われる。

本学における学生による授業評価は、教育学部が平成26年度のスタート時から、組織的FD活動として取り組み、さらに授業評価結果をうけて教員が自己点検し、その結果を教員による授業点検シートに指摘点や授業方法の改善点などを記述し、さらに大学HP上等に公表しながら、積極的に自己研鑽を行い、教育学部全体の教育を質的に向上させる一環として実施することになっている（「はじめにの図を参照」）。一方、教育改善は、学生による授業評価のみならず、大学教育に資する授業が行われているかを同僚教員による授業参観を通して適切に評価することも同時に導入・実施するようにした。このように授業改善に対して多面的に評価を行いながら、教育学部が実施する教育の質と量の面について「質保証」を目指すように制度設計している。

しかしながら、このような組織的なFD活動は、学生諸君に十分知られていないようであり、「授業評価をしてもどうせ何も変わらない」、「授業評価結果はどのように使われているのか知りたい」、「授業評価結果はどこで閲覧できるのか」などの意見がしばしば見受けられる。従って、本学のFD関連のWebページを立ち上げ公開すると同時に学生へのフィード

バックを行う機会を設けて説明を行っている。

教育学部は前述のように平成 26 年度にスタートし、今年度で 2 年目である。以上のような組織的な FD 活動を継続しながら、学生目線でより良い教育を実践し、最終的には学生が教員採用試験合格等を勝ち取れるように、本学部の PDCA サイクルを常にスパイラルアップするように検証していきたい。そのためにも、学生諸君及び関係教員のご理解とご協力をお願いしたい。